

## 原水爆禁世界大会に参加しました!

今回、広島原水爆禁世界大会に参加してまず感じた事は、原爆に反対し平和を訴える人は大勢いるということです。今大会の参加人数は約5000人でしたが、その中には全国だけでなく他の国々からの参加者もいて大変驚きました。

2日目の学習会では、原爆に対する知識を得る機会となり、私にとっての原爆のイメージを変えるものとなりました。これまでの原爆に対する考えは、通常の爆弾を強くした兵器というイメージでした。しかし、実際に被爆者の体験談を聞くと、光った瞬間に光が当たる箇所の細胞は死滅してしまうこと、皮膚の部分は5,000℃くらいあること、原爆の衝撃波は台風の風速の何十倍もあることなどを知り、こんなにも醜い兵器であること実感できました。また、原爆で残った遺跡に行き、そこで起こった話を聞くだけで、今日の前で起きているように感じ、戦争とは恐ろしく、醜いものだと思いました。

現在、形は違いますが、原発という現実が日本にはあり、広島・長崎・福島など悲惨な体験を何度も繰り返すことがないように、原爆・原発の反対運動をしていきたいと思えます。

(リハビリ室 作業療法士 奥間要)



## 中協・部署紹介 リハビリ室

今年度の平成二十四年より、リハビリ室は理学療法士(P.T)八名、作業療法士(O.T)六名、言語聴覚士(S.T)二名、助手一名の計十六名体制に増員しました。

リハビリ室の業務内容は、入院・外来患者様のリハビリ、物療療法です。最近では、P.TやO.Tの増員によって病棟別にセラピスト配置が可能となり、入院患者さまに対して日常生活動作や摂食・嚥下機能練習など今まで以上に手厚いリハビリが行えるようになりました。

病棟カンファレンス、リハビリ実施計画書委員会、医療連携委員会にてケースワーカーや病棟看護師との連携強化も早期から行っており、患者様個別のリハビリゴールを共有して機能回復に努めています。また、必要に応じて退院前訪問や住宅改修等もこれまで以上に積極的に行っていきます。(八月には今帰仁への外出訓練も行い、患者さまからの喜びの声を頂きました。)

リハビリ室は近年若いスタッフも増え、フレッシュな雰囲気となっています。これからは院内・社会保障活動と更にパワーアップして、患者さまへより良いサービスを提供できるよう努力していこうと思えます。リハビリ室をこれからも宜しくお願います。

(リハビリ室 室長 上地健)

◆心療内科よりお知らせ◆  
八月三日より、心療内科の診察室が変更となりました。現在は病院の正面玄関前にあるプレハブの一階に移動しています。元居宅介護支援事業所の場所です。心療内科は他科の診療単位増加などで診察室の移動が重なり、患者さまには大変ご迷惑をおかけしました。どうぞこれからも心療内科のご利用をよろしくお願いいたします。

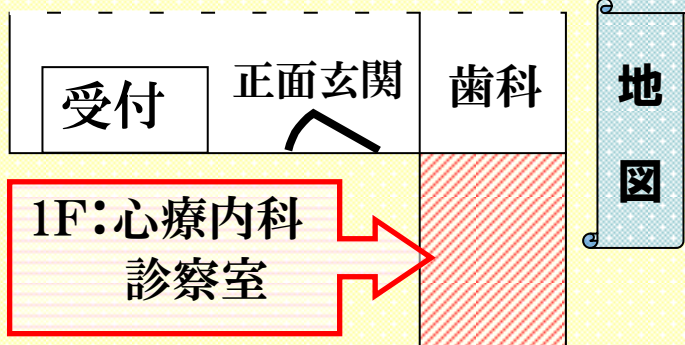
- 毎週水曜日 午前・午後 蟻塚 亮一 先生
- 毎週金曜日 午前・午後 香川 祥子 先生

## 九州・沖縄組合員交流集会

7月10日から11日まで鹿児島で開催された第35回九州沖縄ブロック組合員交流研修会に参加しました。沖縄からは各支部から37名、職員13名の計50人、全体で570人と過去最高の参加者が集いました。初日は記念講演と単協報告です。盲目の落語家桂福点氏による「ノーマライゼーションでお笑いゼーション 相互理解を深めよう」という講演では、自らの障害やそれを健常者が理解するポイントを笑いで示してくれました。落語で大笑いした後は、一転して緊張感ある4生協の単協報告です。印象に残った大分の「自主班会の取り組み」は自分達で作っていく楽しさがあふれた発表でした。沖縄は「平和のとりのくみ」と題し「映画ひまわり」製作協力とオスプレイ反対を訴え支持を得ました。報告終了後の夕食交流会では、太鼓や踊り芝居等で盛り上がりしました。

翌日は、16の分科会に分かれ各県の組合員活動について意見の交流が行われ、あっという間の2日間が終了し、組合員の方々の熱意にパワーを貰い、鹿児島を後にしました。

(2階病棟師長 屋比久亜弓)



## 新人職員生協基礎研修

去る7月12日から13日に愛知県で行われた医療福祉生協の新人職員生協基礎研修会に参加しました。全国から約80名の入職3年未満の職員が参加し、医療福祉生協の意味合いや位置付、各地域の班会や組合員集会等の活動について情報や意見の交換を行いました。私も何度か、班会や組合員の集会等に参加したことはありますが、全国の取り組みについて話を聴くと、地域によってその内容は様々であり、体操・ボウリング・ウォーキング等の運動をはじめ、中にはワインを飲みながらお喋りをする班会もありました。また、現地の組合員の方が「職員が班会等の組合員の集まりに参加してくれるのはとても嬉しい。これからも積極的に参加して欲しい」とお話しされ、組合員のみでなく職員も含めた地域の交流が非常に大切と感じました。今回の研修会に参加することで、全国の医療福祉生協の活動を知ることができ、非常に勉強になり、今後も組合員さんと共に班会や組合員活動等に積極的に参加したいと思います。

(リハビリ室 理学療法士 池宮城麻美)

## NST学習会報告

当病院では月2回程度、対象患

者様の食事内容や栄養面について管理栄養士・看護師・言語聴覚士等が情報交換や今後の方向性等を話し合うNSTチームの会議や回診があります。

また、月1回のNST勉強会を通して知識を深めており、最近では7月6日に勉強会が行われ、私も参加しました。昨年度はNSTが介入する回数が少なかったのですが、勉強会を通して他施設の情報などを拝聴出来て、とても勉強になりました。たくさんの関連部署が関わって、実際の患者様の状態に配慮しながら情報交換することで、患者様を診るべき視点が増えことがとてもよかったです。ぜひ、中部協同病院でもNSTが軌道に乗るように頑張っていきたいです。

※NST＝栄養サポートチーム 職種の壁を越え、栄養サポートを実施する多職種集団

主催：クリニコ

(リハビリ室 言語聴覚士 棚原うれい)

今年には沖縄医療生協が設立して四十周年になります。四十周年を記念して、第七回健康まつりを開催します。メインステージでは豪華ゲストライブあり！また、健康まつりではおなじみの「健康チェックコーナー」や「体力測定コーナー」、更にディスプレイランド、ヘア宿泊券等も当たる「お楽しみ抽選会」もあります。その他出店・展示・バルーンピエロ等様々な企画が盛り沢山！

多くの皆さまのご参加をお待ちしております！



## 医療生協40周年 第7回健康まつり

\*参加無料！\*

(補助競技場のびのび芝生広場)

・日時

十月十四日(日)  
午前10時～午後八時

・場所

奥武山運動公園

後

暑

御

見

舞

## 病院実習報告

今回、約1ヶ月中部協同病院医事課にて実習を行いました。最初は不安が多く緊張していましたが、医事課職員の方々に優しく丁寧に教えていただき、無事実習を終えることができました。

受付業務では国保・社保等保険証の様々な種類を学んだり、患者さまへの接客を行ったりと全てが初めてのことばかりでしたが、どれもが学校の中では体験できない現場特有のことで、勉強になる事ばかりでした。しかし、時には保険者証の有効期限が切れていることについて説明ができず、職員の方に対応をお願いし、ご迷惑をおかけすることもありました。ですが、患者さまに対する職員の方の対応を見て、次回からは自分で説明することも出来ました。また頑張っってわかりやすく説明しようという向上心も生まれました。

約1ヶ月間、長いようで短かったですが、私は中部協同病院で働いている医療事務職員のようになりたいと思いました。良い体験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

(日経ビジネス専門学校 喜久山 結)

7月17日から8月10日までの1ヶ月、医事課にて実習を行いました。実習が始まる前までは4週間という期間は長いと思っていましたが、実際は一日一日が過ぎるのが早く感じました。

初日は、生活保護制度や保険の種類など覚えることが多く、受付ができるようになるのか不安でしたが、日を追うごとにできるようになりました。学校でも保険の勉強や電子カルテは習っていますが、授業で習うよりも実習で実際にやるほうがとても勉強になり身につきました。

1ヶ月の実習が終わるのはとても早く、充実した実習をさせていただきました。職員の方々は、忙しいときに質問した時も分かりやすく丁寧に教えていただき、本当にありがとうございました。実習前は不安しかありませんでしたが、職員の方々にやさしく接していただき、今は感謝の気持ちでいっぱいです。この実習で学んだことを糧にし、就職活動も頑張っていきたいです。約1ヶ月間本当にありがとうございました。

(日経ビジネス専門学校 花城依里)